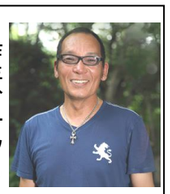
Ｊ１リーグ「サガン鳥栖」、2022年優勝目指して！



㈱サガン・ドリームス（チーム名　サガン鳥栖）
代表取締役会長　内田 弘 氏

昨年、サッカー・Ｊ１サガン鳥栖を運営する「㈱サガン・ドリームス」の会長に就任しました。

今までは、ホームスタジアムの命名権「ベストアメニティスタジアム」としてのサポートやサポート企業として弊社（ベストアメニティ㈱）の主力商品〝雑穀米〟をアスリート向けに開発し、食の面などでサポートしてきました。

しかし、チームが安心して潜在能力を発揮し、サッカーに集中できる環境を提供したいと思い、安定した経営基盤づくりをするために経営に携わることにしました。

サッカーを通じて地域活性化や子供たちが明るい未来を描ける街づくりに貢献したいと思います。

皆様の応援がチームの大きな力になりますので、ぜひホームスタジアムで声援して下さい。

サガン鳥栖のホームスタジアム「駅前不動産スタジアム」
佐賀県鳥栖市京町 812 番地

川井監督・トップチーム選手・トップチームスタッフの皆さん
※写真提供：サガン鳥栖様

ホーム試合	
	3月13日(日)　対　浦和レッズ
	4月　6日(水)　対　コンサドーレ札幌
	4月17日(日)　対　清水エスパルス
	5月　3日(火)　対　セレッソ大阪

小郡市長
加地 良光様

鳥栖市隣接の小郡市・基山町・久留米市は「サガン鳥栖応援宣言」を行っています。新監督、新戦力が加わり、エネルギッシュに走り勝つフットボールで、熱く地域を盛り上げてくれることを期待しています。

「サガン鳥栖」のルーツとＳＭＩ

「サガン鳥栖」は、佐賀県サッカー協会を中心に立ち上がったクラブチームですが、浜松を拠点に活動していた「ＰＪＭフューチャーズ」が鳥栖市に誘致されたことが発端なのです。

ＳＭＩ日本総代理店会長がスポンサーとなり、桑原氏と共に設立。「ＰＪＭフューチャーズ」のＰＪＭとは、ＳＭＩ創立者ポールＪ．マイヤーの名前が由来です。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

約37年前、桑原勝義氏（元サッカー選手・現日本サッカー協会理事等）が、ＳＭＩ採用後、２００２年ワールドカップを射程に活躍するプロサッカー選手作りの夢を描いたことからスタート。

桑原勝義氏の
自叙伝

その夢に共鳴した会長と一緒にプロサッカーチームを作り、「サッカーを国民的スポーツにする」と夢を掲げたのです。のちにこの夢は、ＳＭＩのクライアントでもある川淵三郎氏（ＳＭＩ国内コンベンションにて講演）たちによって実現されました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

昭和62年、「ＰＪＭフューチャーズ」は、壮大な夢によって設立されたのです。

桑原氏は「スポーツに悪しき根性論は不要」と最初に言った人だけあって、「心」「技」そしてＳＭＩが提唱する「潜在能力の可能性」：無限の可能性を引き出すを柱にチーム作りを始めました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

設立時のチームメンバーは、かつて日本代表として活躍したとはいえ、殆どが現役引退し、本田や古河電工などでサラリーマンをしていた友に声をかけ賛同した仲間でした。全くの無名だったＰＪＭフューチャーズがウーゴ・マラドーナなど補強し、３部リーグから１９９３年Ｊリーグ準会員へと昇格。そして、鳥栖への誘致が決まり、「鳥栖フューチャーズ」へ。

鳥栖に誘致されてからは、幾度となくクライアントの皆さんと応援に行ったものです。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

しかし、当時の鳥栖市と諸所の相違により撤退。存続を熱望したサポーターによる５万人の署名で「サガン鳥栖」として生まれかわります。だからこそサポーター・地域と選手の絆は強いのです。

２０２２シーズンが開幕しました。九州で「サガン鳥栖」を応援し、スタジアムで声援しましょう！

《昨年現役引退された高橋氏へインタビューしました。》

『サガン鳥栖は高橋義希です！』

～ミスターサガンと呼ばれ、サポーターから愛された選手～

Ｊ1リーグ サガン鳥栖
サガン・リレーションズ・オフィサー
高橋　義希氏

背番号14、ミッドフィルター（ＭＦ）、36歳、長野県須坂市出身。
松商学園高校卒業後、04年J2サガン鳥栖入団。05年U21日本代表。10年J1ベガルタ仙台からのオファーで移籍。12年J1サガン鳥栖に戻り主力選手として活躍。21年引退。
運動量が突出して多く、走行距離Ｊリーグ歴代1位の記録。

Q夢や目標は何でしたか？

９歳からサッカーをしていたので、夢はサッカー選手になることでした。夢が実現してからは試合に出る→Ｊ1昇格→Ｊ1で試合に出る→Ｊ1で優勝と目標もステップアップしました。

Qトーレス元選手など抜けてもよい結果を出せたのは？

トーレスがいなくなって精神的にも大きな痛手でマイナスもありました。クラブのために一生懸命やっていた選手なので残念でしたが、プロの世界ではよくあることです。

昨年はチーム作りに励み、選手もスタッフの要求以上に応えようとしました。どのような状況でも選手はグランドの中で結果を追い求め続けたのが前半戦の結果だったと思います。また魅力的なサッカーができたことは自信をもつことができ、今期に繋げればサガン鳥栖の未来も明るくなります。

ＭＦ１４
走行距離
Ｊリーグ
歴代１位

Q内田オーナーに変わっての変化は？

選手は、ピッチレベルではやることは変わらないです。経営が安定していることは大切ですが、選手は結果を出し続けることが大事です。

以前から内田オーナーの会社（ベストアメニティ㈱）より雑穀米など食のサポートをして頂いていたので健康管理の面で有難かったです。

サポーターが増える体制作りの大切さを仰る通り、もっと愛されるチーム、子供達が入りたいと思うチーム、子供達が溢れるようになればと思います。

コロナ禍で地域の方との距離が少し出たので、できる限り地域の方々と交流を実現できたらと考えています。

Q引退に関しては？

相当悩みました。まだサッカーはやれると思っていましたし、体もまだ動くのでこの決断は簡単ではなかったですね。

Q選手時代、悔しかった事や喜びは？

悔しかったことは、負けること、試合に出られないことですね。

喜びは、勝った後にサポーターの方々にご挨拶するとき、笑顔を見られたり、勝利を一緒に分かちあった瞬間が最高に嬉しかったです。

引退試合後のスタンドは、高橋元選手への惜しみない拍手と感謝のメッセージで溢れています。「鳥栖の歴史は義希の歴史・感謝」

Q誇りに思えることは？

サポーターです。サポーターの存在がなかったらＪ1を10年も戦えるチームではなかったですし、ＰＪＭフューチャーズからサガン鳥栖になるときのサポーターの協力は大きかったです。

サガン鳥栖のサポーターは、一緒に戦っているという一体感や相手チームへのリスペクトもありますし、温かさも凄くありファミリーという感じですね。応援してくれているサポーターのために勝つという思いでやってきました。

Qフロントに移り今後の夢や目標は？

フロントと選手が一体化であることが理想的なクラブの形ですので、ファミリーとして全体がサガン鳥栖として戦うことが重要です。

トップチーム選手は、これから戦うという円陣を組む前に「クラブの代表として戦う、チームが勝つためにいろいろな方々が協力し、汗を流してくれている」そういう思いや自覚をもって戦う気持ちを大切にしています。それはサガン鳥栖が大切にしてきたことなので、今後もその思いをもって団結したら強く良いクラブになれます。

内部が更に一つになるためやサガン鳥栖が地域に愛してもらえるようにいろいろ発信していくことも必要ですし、今後フロントとして僕の力で今できることをやっていけたらと思います。

選手として16年在籍し、サガン鳥栖の歴史を知っている唯一の者として若い世代に歴史を伝えたり、自分の姿勢で見せるように心がけてきました。多くの選手が下部組織から上がってきていますので、今度はその世代の選手にサガン鳥栖の歴史を伝える場を創っていきたいと思います。

サッカー選手として大切にしてきた部分をブレずにやり続けることは、ピッチ外でも大切だと思うので、これからもサガン鳥栖のために走り続けていきます。